

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

1階

事業者名	グループホームはるとり	評価実施年月日	平成19年7月31日
評価実施構成員氏名	野田 井村 原田 木皿 小濱 山口 大西		
記録者氏名	野田清子	記録年月日	平成19年8月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所の理念を基に地域に根ざし、互いに支えあえるホームを目指している。	近隣の住民に幅広く理解をして頂く。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員全員で理念を共有し、理念が実現できる様取り組み、実践している。職員の採用時には必ず理念を伝えている。	フロア理念は会議で意見を出し合い作成し、利用者を書いて頂きフロアに掲示している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域の方々と交流の機会が少なく、ホームの理念を理解してもらうに至っていない。契約時には説明をしている。	家族には折に触れお話しする様に心がけ、通信に年2回位記載する。通信は町内に回覧しているので、理解して頂くきっかけにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩、外出時には積極的に挨拶し近隣住民には遊びに寄って頂けるよう声を掛けている。	近所の方が日常的に立ち寄る事は殆どないので、行事の参加を呼びかけるなど交流の機会を設けたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	行事の参加への呼びかけ、町内会との合同防災訓練を実施。地域包括支援センターとの交流。地域以外の保育園との交流。	今年初めての試みで合同防災訓練を実施。8名の参加が得られた。利用者と包括センター主催の盆踊りに参加。毎年園児が訪問し歌、踊りを披露してもらっている。又、クリスマス会に招いてもらい、交流している。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者が週1回来訪し、一緒に過ごして頂いている。(現在は体調を崩され休まれている)	利用者のプライバシー、体調に充分配慮し関わりを持って頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>意義を理解し取り組んでいる。改善点はカンファレンスで協議し、見直し、改善している。提案があった夜間入浴を実施し、協議し検討した。</p>	<p>夜間入浴を実施したが利用者から、食事はゆっくりしたい、テレビを見たいなどの意見があり中止した。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に一度運営推進会議を行っている。フロア会議で内容を報告する。会議録も閲覧できる。</p>	<p>フロアリーダーも参加している。今後は介護員も参加できるようにしたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域包括ケア会議(年2回)に、近隣ホームの代表として参加し、包括センター、市職員、民生委員、他地域の方々と意見交換している。又ホームの活動について報告している。</p>	<p>今後も機会があれば積極的に参加していきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所は研修を受けて理解に努めている。将来必要になる方について市役所に相談するなど活用する準備をしている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修参加などで学んでいる。虐待の事件について日常的に又は会議の中で話し合い、防止に努めている。</p>	<p>入浴時に体を観察するなど注意を払っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には充分説明し納得して頂いている。内容の変更などの際も説明し、理解して頂いている。</p>	<p>機会がある毎に不明点、疑問点などを聞く様にしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>話しやすい環境作りに努めている。訴えがあった内容に関しては意見交換し、対応できるように話し合っている。</p>		<p>意見、苦情に傾聴し速やかに対応していきたい。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月お便りを配布。来訪時に状況を報告している。</p>		<p>お便り配布時、金銭は金銭帳に記載しコピーを送っている。状況により電話で報告している。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時など、何でも話して頂けるような雰囲気作りに努めている。家族会で話し合い、意見を出して頂く。</p>		<p>家族が率直な意見を言えるような関係作りに努めたい。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>フロア会議で話し合い解決する様にしている。個人面談を行い意見を聞く。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要な時に必要な人員の確保ができるよう勤務調整に努めている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>一度に多人数の入れ替えを行わない様に心がけている。</p>		<p>利用者が不安にならない様に馴染みの関係を築くまで関わりを持ち、ダメージを最小限にするよう配慮している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	ホームで作成した資料の配布、段階に合った勉強会又は研修などに参加している。	中堅職員は新人職員のリーダー的立場になり力を発揮して人材育成を進めている。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	連絡協議会がありその中で交換研修やスタッフ研修を行い、質の向上に努めている。	交換研修後は報告書を提出し会議で報告。又専門学校、ヘルパー実習生の受け入れを行っている。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	新人職員には折を見て意見を聞く様にしている。又中堅職員にはいつでも意見を言える状況を作っている。	年に1～2度ほど、親睦会など交流の機会を持つ
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	希望を持って働けるように個々の長所を見極めるよう努めている。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	面談で生活状況を把握。サービスを受けていた施設、入院施設、ケアマネージャーからの情報も参考にして、本人の状態その他のニーズの把握に努めている。	利用者の居室でゆっくりと傾聴するようにしている。会議で意見交換し解決している。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	面談で生活状況を把握。家族の思いに傾聴し、不安を取り除くよう努めている。	ホームでの生活と家族のニーズに相違がない様、しっかりと意向を受け止め話し合う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の思いに傾聴し必要な支援に努めている。		情報と利用者本人が今何を望んでいるかを把握できないところもある。コミュニケーションをとり解決するよう努めている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の事前見学時に一緒におやつを摂って頂いたり、歌を歌ったり、ホームの雰囲気馴染んで頂けるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介護を前面に出さず、入居者より教えて頂いたり実際にやって頂いたり、良い関係ができています。		毎日、新聞を声に出して読み、聞いてもらい、話に花が咲いている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来訪の際、近況報告し、協力を得ている。行事への参加の呼びかけ。		より良い信頼関係を築いていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	来訪時に状況を説明して理解して頂いている。会議などで話し合い良い関係が築けるよう支援している。		面会の少ない方には電話で近況報告をするなど関係が保たれるよう支援している。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者からの要望があれば外出、電話、面会は自由にして頂いている。会いたい人に会えるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	余暇活動。各自の仕事、役割。		余暇活動をすることによって良い関係ができています。また各自の役割があり利用者同士で声を掛け合っている。役割がなくなる様に支援している。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	要望に応じ随時相談を受け付ける。		退所時は写真や、職員と利用者の寄せ書きなど思い出の記念品を渡している。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本人からの希望を聞き、利用者が直接訴えられない時には家族を通して頂く様、来訪時家族に声をかけている。		センター方式を活用したり会話から把握したり、信頼関係作りに努めている。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報。センター方式の活用。		本人、家族からの要望に応じられる様センター方式を活用している。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	常に見守り、観察する様にしている。又できる事への促し、声かけを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	会議でケアカンファレンスを行い介護計画書を家族に確認して頂き意見を聞いている。		全職員の意見を反映している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化に応じその都度話し合い、見直し、新たなプランを立案している。		状態観察に日々努め、速やかに対応する。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に添い、日々の状態を記録し情報を把握して介護計画に反映している。		変化、気づきなど小さな事でも連絡、報告、相談など密に行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況、要望に応じ支援している。近隣ホーム、社会福祉協議会の行事に参加し交流している。		近隣の高齢者の状況に応じてデイサービスの利用ができる様に取り組みたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して暮らし続けられる様、警察の定期巡回時には必要に応じた情報を提供している。		ボランティアに働きかけ来訪して頂いている。又菊まつりなどに積極的に参加している。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向に応じ、地域の他のケアマネージャーと話し合い、介護保険以外のサービスなどの紹介、支援を行った。今後も意向に添い連携をとっていく。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に包括支援センター職員の参加があり、周辺情報や支援に関する情報、協働関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームの看護職員が日常の健康管理を行い、特変があれば介護職員と相談し、状況によりかかりつけ医へ受診し指示を受ける。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じて受診前に医師に直接状態を報告している。又必要と思われる時には受診して頂く。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員が健康管理をしている。24時間のオンコール体制が取れている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族、医療機関と情報交換し対応している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期に向けた指針については家族会で話し合っている。本人、家族と早い段階から話し合い希望に添う。医師、看護師と相談し指示を受け共有する。		家族、医療関係者と連携を図り対応する。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族、医療関係者、スタッフと早期から話し合う。		本人、家族の希望を聞き、事業所の「できること、できないこと」を早期に整備しかかりつけ医、ホーム看護師と相談、協力のもと、一丸となって取り組めるチーム作りをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ダメージを最小限に抑えるためできるだけ詳細な情報を提供することに努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりを尊重した声かけ、対応は職員が個々に心に留めている。又自尊心を傷つける様な記録にも留意している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日々の会話の中から汲み取り、働きかけ、誘導し、できるだけ自分で決めたり納得できるような声かけや会話に努めている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者のペースに合わせて希望する事を優先する様に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容師が月1回来訪しカットしている。要望に応じてパーマ、毛染めは近隣の美容室に行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>下準備、できる範囲の調理など役割があり一緒に行っている。季節の話題を楽しみながら旬の食物を調理する。</p>		<p>職員も同じ食事を頂く。準備も利用者が助け合いながら、役割を持ち、良い関係で積極的に行ってくれる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の嗜好は把握し、楽しめるようにしている。		喫煙は自由にできる所を設けている。飲酒は本人、家族の希望に応じ提供している。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握しできる限り失敗の少ない排泄支援を実施している。		特に全盲の方には、時間誘導トイレでの排泄ができる様支援している。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は順番で決まっているが、入浴の長さは一人ひとり配慮している。		希望によって入浴日を変更し強制せず行っている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	休息は個々にとっている。夜間安眠できるように心がけている。		日中活動できることを提供し傾眠を少なくする様にしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備、掃除に役割がある。余暇活動、ドライブ。		一人ひとりの役割が定着され余暇活動も楽しんでもらっている。新緑、紅葉、外食を楽しんだりしている。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の了承を得た上で、お金の所持をしてもらっている。又自由に使える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブ、法事、外泊などの支援を行う。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	12月下旬、夜間のイルミネーション見学など、時期、時間に関係なく希望に応じている。		正月、お盆など家族と連絡を取り、外出、外泊支援をしている。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望があれば電話は自由。手紙、年賀状の支援を行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自由に訪問、宿泊もでき、ゆっくり過ごせる様に配慮している。気軽に訪問できるような雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実践している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は施錠しておらず、出入りも自由にしている。居室も施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者の所在、安全に努め、一人ひとりのプライバシーに配慮している。</p>		<p>夜間は巡回時以外は異変がない限り見守りとしている。</p>
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者の状態に合わせ、管理できる方ははさみ、裁縫道具など使用してもらっている。</p>		<p>刃物は夜間は蓋付き容器で保管している。漂白剤、洗剤などは目に付かないところに保管している。利用者個人の物で注意の必要な物は本人と話し合い、お預かりする。</p>
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ホーム全体で、火災の原因や誤薬などには特に注意を払っている。又職員一人ひとりが利用者の安全の為事故防止に努めている。</p>		<p>薬はホームで管理。服薬時は職員確認。利用者にも名前の確認をして頂く。消防の訓練、視察、指導を受け、対応できるよう努めている。</p>
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>救命救急の講習会に参加し指導を受けている。緊急時の対処法についてマニュアルを作成し早期対応できるようにしている。</p>		<p>急変時の為の処置の仕方の指導を受けている。夜間は2階夜勤者と協力し初期対応し、必要に応じ救急車を要請。看護師、ホーム長への連絡体制ができています。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>災害時は近隣住民の協力を得ることができる。避難訓練を年2回実施。夜間を想定した訓練も行っている。</p>		<p>町内会との合同防災訓練を行い、協力を得られた。今年も多くの方々の協力を得られるように取り組んでいきたい。</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>状況変化時は家族、ホーム長、職員などで話し合い対策をとっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタル測定、検温、排泄、皮膚観察などチェックし、異変時には記録し緊急時は看護師に相談、対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋を理解しており、服用時には手渡し、服薬まで確認する。個人記録には最新の薬情報を綴っており、確認し共有できるようにしている。</p>	<p>個々の薬箱を用意し保管している。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>毎日の排便、水分量のチェック、運動の促し、食事は野菜、食物繊維の多い食品をバランス良く摂る様心がけている。それでも便秘になる方は医療機関と相談し下剤服用し解消している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>朝、夕の口腔ケアは声をかけ促している。</p>	<p>殆どの利用者は自力で行っているの見守りし、できない方は職員が支援する。訪問診療を依頼し口腔ケアの指導をして頂く。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分量、食事量のチェックを記録し申し送りで把握している。</p>	<p>月1回の体重測定を基に考慮している。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザの予防接種は年1回行っている。ノロウイルスの予防の為トイレ使用後の確認。職員使用時に消毒布で便座、床拭きを励行。利用者の手洗いを励行。</p>	<p>感染予防マニュアル作成し日ごろから手洗い、うがいを心がけている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>使用后、台所、調理器具の消毒を行っている。布巾なども都度消毒している。</p>		<p>食材の買い置きを少なくし都度新鮮な食材を購入している。賞味期限のチェックを行う。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関のスロープに花のプランタを置き広い駐車場の周りには花壇があり花を見て散歩を楽しむことができる。裏庭には広い畑があり野菜を作り楽しんでいる。</p>		<p>花が好きな利用者が多く、散歩時花を摘んで楽しんでいる。その際近所の方との交流がある。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>食堂、居間には季節の花を飾り、四季を感じられる様に心がけている。窓には鉢花を置き壁には利用者手作りの作品を飾っている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>フロアは広くテレビ、ソファを設置。又喫煙のスペースがあり利用者が自由に場所を選ぶことができる。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室内、ベッド、テレビ、家具や茶碗、コップなど個人が使い慣れた物を使ってもらい落ち着く生活ができるように工夫している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気、空調に充分配慮し、健康管理に努めている。</p>		<p>冬場は乾燥予防に居室に濡れたバスタオルをかけている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部はバリアフリーで手摺りが各所に設置してある。又入口の多くは引き戸で安全に配慮したつくりになっている。</p>	<p>障害になる物は置かない様にしている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりに合った話し方や伝え方を工夫。混乱しない様に配慮している。カンファレンスで検討しケアに反映できる様協議している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>体調に合わせてベランダで日光浴をしたり、時にはお茶を飲みながらお菓子を食べる等団樂の場所になっている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>短時間でも利用者と話をし、本人の意向や思いの変化を把握している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>お茶、食事時はゆったりとしながら、皆さんが楽しめる話題を提供している。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>ゆっくり過ごせる時間があり、個人のペースに合う生活。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>いつも笑いがあり、利用者の興味のある事など多く取り入れ、又引き出すように努めており、満足して頂いていると思う。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>全員ではないが、偏らない様個人の希望に添い支援している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>早期発見、早期対応を心がけており、不安なく過ごせていると思う。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>状態の変化に合わせた柔軟な対応をしており、安心して暮らしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会の多い家族には状況の報告、訪問の少ない遠方の家族には月1回電話で報告している。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>異動になった職員、離職した職員が訪問してくれる。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	行事、防災訓練の取り組みにより、町内の方々の参加が得られ少しずつ理解して頂いている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	それぞれが笑顔で働いており、いきいきしていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	利用者の笑顔も多く見られ「ありがとう」「ここはいいところ」と言う声が聞かれる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	毎月お便りで報告、写真も載せている。来訪の少ない遠方の方の家族もあり、全てとは言えない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 身体の機能が低下しないように、献立の工夫、余暇活動に力を入れており、自分らしく生き生きと生活できるように取り組んでいる。利用者の交流も多く仲良く生活している。その為に余暇活動や行事も多く取り入れ、利用者、家族からも喜ばれており、感謝の言葉を頂いている。職員の声かけや対応も、人権が守られるよう事業所全体で配慮する様に努めている。リビングには利用者の作品を展示している。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

2階

事業者名	グループホームはるとり	評価実施年月日	平成19年7月31日
評価実施構成員氏名	野田 藤本 佐々木 鈴木 森 太田 阿部 加賀谷 笹山		
記録者氏名	野田清子	記録年月日	平成19年8月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所の理念を基に地域に根ざし、互いに支えあえるホームを目指している。	近隣の住民に幅広く理解をして頂く。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員全員で理念を共有し、理念が実現できる様取り組み、実践している。職員の採用時には必ず理念を伝えている。	事業所の理念、フロア理念を掲げており日々の中で話し合い、新人職員にも伝えていく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域の方々と交流の機会が少なく、ホームの理念を理解してもらうに至っていない。契約時には説明をしている。	家族には折に触れお話しする様に心がけ、通信に年2回位記載する。通信は町内に回覧しているので、理解して頂くきっかけにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩、外出時には積極的に挨拶し近隣住民には遊びに寄って頂けるよう声を掛けている。	地域の行事に参加する機会を増やす。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	行事の参加への呼びかけ、町内会との合同防災訓練を実施。地域包括支援センターとの交流。地域以外の保育園との交流。	今年初めての試みで合同防災訓練を実施。8名の参加が得られた。利用者と包括センター主催の盆踊りに参加。毎年園児が訪問し歌、踊りを披露してもらっている。又、クリスマス会に招いてもらい、交流している。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者が週1回来訪し、一緒に過ごして頂いている。(現在は体調を崩され休まれている)	利用者のプライバシー、体調に充分配慮し関わりを持って頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>意義を理解し取り組んでいる。改善点はカンファレンスで協議し、見直し、改善している。提案があった夜間入浴を実施し、協議し検討した。</p>	<p>夜間入浴を実施したが利用者から、食事はゆっくりしたい、テレビを見たいなどの意見があり中止した。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に一度運営推進会議を行っている。フロア会議で内容を報告する。会議録も閲覧できる。</p>	<p>フロアリーダーも参加している。今後は介護員も参加できるようにしたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域包括ケア会議(年2回)に、近隣ホームの代表として参加し、包括センター、市職員、民生委員、他地域の方々と意見交換している。又ホームの活動について報告している。</p>	<p>今後も機会があれば積極的に参加していきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所は研修を受けて理解に努めている。将来必要になる方について市役所に相談するなど活用する準備をしている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修参加などで学んでいる。虐待の事件について日常的に又は会議の中で話し合い、防止に努めている。</p>	<p>入浴時に体を観察するなど注意を払っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には充分説明し納得して頂いている。内容の変更などの際も説明し、理解して頂いている。</p>	<p>機会がある毎に不明点、疑問点などを聞く様にしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>話しやすい環境作りに努めている。訴えがあった内容に関しては意見交換し、対応できるように話し合っている。</p>		<p>意見、苦情に傾聴し速やかに対応していきたい。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月お便りを配布。来訪時に状況を報告している。</p>		<p>お便り配布時、金銭は金銭帳に記載しコピーを送っている。状況により電話で報告している。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時など、何でも話して頂けるような雰囲気作りに努めている。家族会で話し合い、意見を出して頂く。</p>		<p>家族が率直な意見を言えるような関係作りに努めたい。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>フロア会議で話し合い解決する様にしている。個人面談を行い意見を聞く。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要な時に必要な人員の確保ができるよう勤務調整に努めている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>一度に多人数の入れ替えを行わない様に心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>ホームで作成した資料の配布、段階に合った勉強会又は研修などに参加している。</p>	<p>中堅職員は新人職員のリーダー的立場になり力を発揮して人材育成を進めている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>連絡協議会がありその中で交換研修やスタッフ研修を行い、質の向上に努めている。</p>	<p>他ホームとの交換研修を積極的に行いサービス水準、質の向上につなげる。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>新人職員には折を見て意見を聞く様になっている。又中堅職員にはいつでも意見を言える状況を作っている。</p>	<p>年に1～2度ほど、親睦会など交流の機会を持つ</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>希望を持って働けるように個々の長所を見極めるよう努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談で生活状況を把握。サービスを受けていた施設、入院施設、ケアマネージャーからの情報も参考にして、本人の状態その他のニーズの把握に努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談で生活状況を把握。家族の思いに傾聴し、不安を取り除くよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の思いに傾聴し必要な支援に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の事前見学時に一緒におやつを摂って頂いたり、歌を歌ったり、ホームの雰囲気馴染んで頂けるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	尊敬する気持ちを忘れず、教えてくれた事はあるありがとうの気持ちを伝え、支えあえる関係を築いていける様心がけている。		毎日、新聞を声に出して読み、聞いてもらい、話に花が咲いている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来訪の際、近況報告し、協力を得ている。行事への参加の呼びかけ。		より良い信頼関係を築いていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	来訪時に状況を説明して理解して頂いている。会議などで話し合い良い関係が築けるよう支援している。		面会の少ない方には電話で近況報告をするなど関係が保たれるよう支援している。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者からの要望があれば外出、電話、面会は自由にして頂いている。会いたい人に会えるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が関わる時間を作り、孤立しない様支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	要望に応じ随時相談を受け付ける。		退所時は写真や、職員と利用者の寄せ書きなど思い出の記念品を渡している。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本人からの希望を聞き、利用者が直接訴えられない時には家族を通して頂く様、来訪時家族に声をかけている。		センター方式を活用したり会話から把握したり、信頼関係作りに努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報。センター方式の活用。		本人、家族からの要望に応じられる様センター方式を活用している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常生活の中で観察し、情報を共有しながら把握する様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	会議でケアカンファレンスを行い介護計画書を家族に確認して頂き意見を聞いている。		全職員の意見を反映している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化に応じその都度話し合い、見直し、新たなプランを立案している。		状態観察に日々努め、速やかに対応する。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活の中での様子など個別に記録して情報を共有しプランの見直しに生かしている。		変化、気づきなど小さな事でも連絡、報告、相談など密に行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況、要望に応じ支援している。近隣ホーム、社会福祉協議会の行事に参加し交流している。		近隣の高齢者の状況に応じてデイサービスの利用ができる様に取り組みたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して暮らし続けられる様、警察の定期巡回時には必要に応じた情報を提供している。		ボランティアに働きかけ来訪して頂いている。又菊まつりなどに積極的に参加している。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向に応じ、地域の他のケアマネージャーと話し合い、介護保険以外のサービスなどの紹介、支援を行った。今後も意向に添い連携をとっていく。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に包括支援センター職員の参加があり、周辺情報や支援に関する情報、協働関係を築いている。		意見交換、相談、アドバイスなど参考にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームの看護職員が日常の健康管理を行い、特変があれば介護職員と相談し、状況によりかかりつけ医へ受診し指示を受ける。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じて受診前に医師に直接状態を報告している。又必要と思われる時には受診して頂く。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員が健康管理をしている。24時間のオンコール体制が取れている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族、医療機関と情報交換し対応している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期に向けた指針については家族会で話し合っている。本人、家族と早い段階から話し合い希望に添う。医師、看護師と相談し指示を受け共有する。		まだ該当者がいないがそうした場合に備えて関係者と話し合い体制作りに取り組む。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族、医療関係者、スタッフと早期から話し合う。		本人、家族の希望を聞き、事業所の「できること、できないこと」を早期に整備しかかりつけ医、ホーム看護師と相談、協力のもと、一丸となって取り組めるチーム作りをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ダメージを最小限に抑えるためできるだけ詳細な情報を提供することに努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人の人格を尊重し常に言葉かけに注意し、個人記録も所定の場所に保管している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりが理解できる力が違うのでその方に合った声かけ、言葉で関わり、傾聴する様に努めている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者のペースに合わせて希望する事を優先する様に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容師が月1回来訪しカットしている。要望に応じてパーマ、毛染めは近隣の美容室に行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎日献立に偏りが無い様注意している。量や味付けを話題にしながら全員で食事している。</p>		<p>役割分担も決まっており、準備、盛り付け、食器洗いなど行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の嗜好は把握し、楽しめるようにしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握しできる限り失敗の少ない排泄支援を実施している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は順番で決まっているが、一人ひとりに合わせゆっくり入浴してもらっている。		希望によって入浴日を変更し強制せず行っている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	トイレの場所がわからない方、歩行状態の悪い方の居室には感知マットを設置し自力覚醒で眠りを妨げずトイレ誘導している。		外出、散歩など活動量を増やし日中の傾眠を少なくする様にしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の能力に応じて買い物に行ったり、余暇活動に力を入れている。		一人ひとりの役割が定着され余暇活動も楽しんでもらっている。新緑、紅葉、外食を楽しんだりしている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の了承を得た上で、お金の所持をしてもらっている。又自由に使える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブ、法事、外泊などの支援を行う。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	12月下旬、夜間のイルミネーション見学など、時期、時間に関係なく希望に応じている。年に数回家族と共に出かけられる行事を計画し参加を働きかけている。(遠方へのドライブ、新緑の遊覧船、秋の紅葉など)		正月、お盆など家族と連絡を取り、外出、外泊支援をしている。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望があれば電話は自由。手紙、年賀状の支援を行っている。		月1回おたよりの宛名書きなど声かけし支援している。それにより家族から手紙で返事がある。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自由に訪問、宿泊もでき、ゆっくり過ごせる様に配慮している。気軽に訪問できるような雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実践している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は施錠していない。居室は、間違えて入室してしまいトラブルになるので鍵をかけている方もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者の所在、安全に努め、一人ひとりのプライバシーに配慮している。</p>		<p>夜間は巡回時以外は異変がない限り見守りとしている。</p>
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物、針、はさみなどは本数を確認し目に触れない所に保管している。</p>		<p>刃物は夜間は蓋付き容器で保管している。漂白剤、洗剤などは目に付かないところに保管している。利用者個人の物で注意の必要な物は本人と話し合い、お預かりする。</p>
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ホーム全体で、火災の原因や誤薬などには特に注意を払っている。又職員一人ひとりが利用者の安全の為事故防止に努めている。</p>		<p>薬はホームで管理。与薬はマニュアルに添い行う。全員が気配りし事故を未然に防ぐ意識を持つ。</p>
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>救命救急の講習会に参加し指導を受けている。緊急時の対処法についてマニュアルを作成し早期対応できるようにしている。</p>		<p>新人職員にも研修の機会を作る。夜間の場合は1階夜勤者と協力し初期対応する。必要に応じ救急車を要請し、看護師、ホーム長への連絡体制ができています。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>災害時は近隣住民の協力を得ることができる。避難訓練を年2回実施。夜間を想定した訓練も行っている。</p>		<p>町内会との合同防災訓練を行い、協力を得られた。今年も多くの方々の協力を得られるように取り組んでいきたい。</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>状況変化時は家族、ホーム長、職員などで話し合い対策をとっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタル測定、検温、排泄、皮膚観察などチェックし、異変時には記録し緊急時は看護師に相談、対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋を理解しており、服用時には手渡し、服薬まで確認する。個人記録には最新の薬情報を綴っており、確認し共有できるようにしている。</p>	<p>個々の薬箱を用意し保管している。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>毎日の排便、水分量のチェック、運動の促し、食事は野菜、食物繊維の多い食品をバランス良く摂る様心がけている。それでも便秘になる方は医療機関と相談し下剤服用し解消している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>朝、夕の歯磨き、義歯の洗浄、消毒を行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分量、食事量のチェックを記録し申し送りして把握している。食事量も個々の状態に応じて提供し栄養のバランスにも気配りしている。</p>	<p>月1回の体重測定を基に考慮している。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザの予防接種は年1回行っている。ノロウイルスの予防の為にトイレ使用後の確認。職員使用時に消毒布で便座、床拭きを励行。利用者の手洗いを励行。</p>	<p>感染予防マニュアル作成し日ごろから手洗い、うがいを心がけている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>使用后、台所、調理器具の消毒を行っている。布巾なども都度消毒している。</p>		<p>食材の買い置きを少なくし都度新鮮な食材を購入している。賞味期限のチェックを行う。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関のスロープに花のプランタを置き広い駐車場の周りには花壇があり花を見て散歩を楽しむことができる。裏庭には広い畑があり野菜を作り楽しんでいる。</p>		<p>花が好きな利用者が多く、散歩時花を摘んで楽しんでいる。その際近所の方との交流がある。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関、居間などは光が多く取り込まれ明るい。また居間の壁には季節感のある飾りが施されて目を楽しませている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>テレビ周りにソファを置き、利用者同士でテレビを見たり、話をしたり自由に使っている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室内、ベッド、テレビ、家具や茶碗、コップなど個人が使い慣れた物を使ってもらい落ち着く生活ができるように工夫している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>掃除の時は窓を開け、空気の入替えをしている。温度調節にも心がけ健康管理に気をつけている。</p>		<p>冬場は乾燥予防に居室に濡れたバスタオルをかけている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>努力はしているが全てではない。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>お茶、食事時はゆったりとしながら、皆さんが楽しめる話題を提供している。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>一人ひとりのペースで暮らしている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>いつも笑いがあり、利用者自身から、「ここは良いところだ。」との言葉も聞かれる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>全員ではないが、偏らない様個人の希望に添い支援している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>健康管理には気を配っている。変化があれば病院に受診。環境面での配慮、その日の体調に気配りする。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>安心して暮らせるよう、定期的要望に応じている。臨機応変に対応している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会の多い家族には状況の報告、訪問の少ない遠方の家族には月1回電話で報告している。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>地域の高齢者が定期的に訪問していたが、体調を崩し現在休んでいる。音楽関係者が月1回ボランティアに来ている。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	行事、防災訓練の取り組みにより、町内の方々の参加が得られ少しずつ理解して頂いている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない	笑顔で元気に働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない	利用者の笑顔も多く見られ「ありがとう」「ここはいいところ」と言う声が聞かれる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない	来訪の少ない家族もあり、全てとはいえない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
毎日暮らしに退屈しないように、余暇活動や生活リハビリ、ラジオ体操を中心に外出支援を重視し、体力低下を防ぐために、野菜、花作りなどをし、利用者が一人になる時間をなくすよう心掛けている。